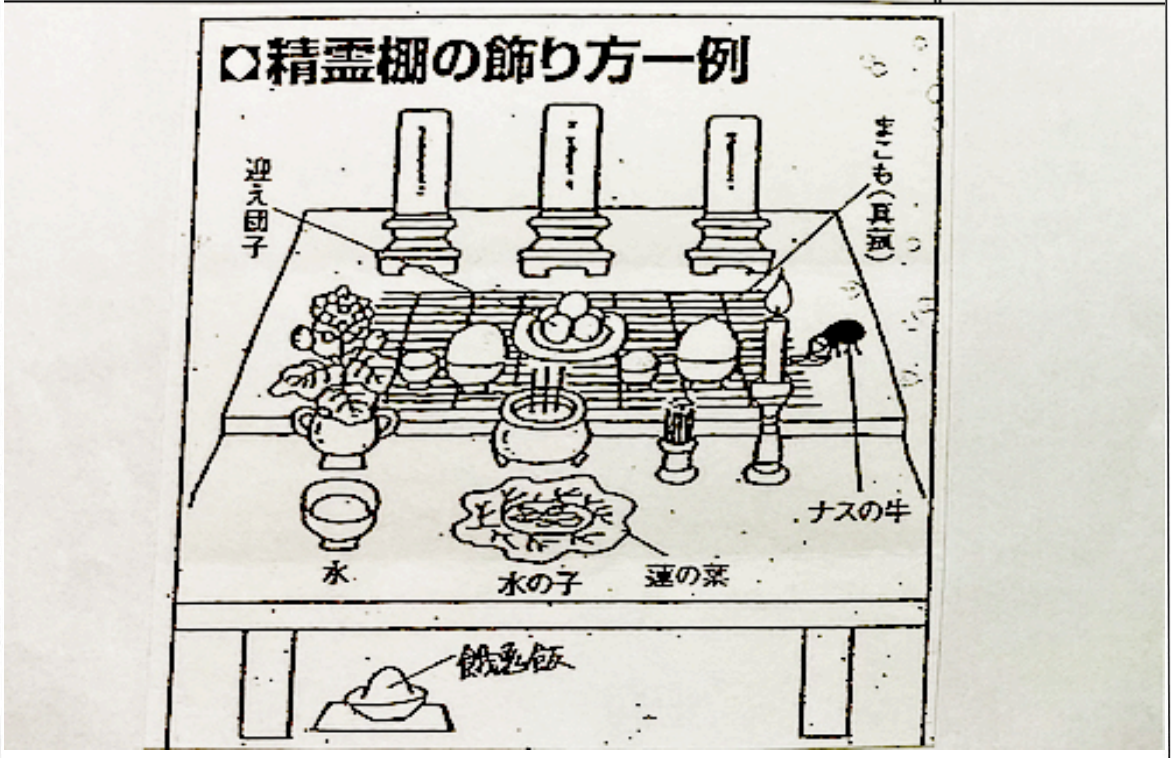
順雲山　光照院　普仙寺

普仙寺だより

発行
浄土宗
順雲山
光照院
普仙寺
第２８９号
令和２年
７月８日



お盆の精霊棚の一例。机に真菰を敷き仏壇の中からお位牌を移します
香炉・灯明・花立・水向け皿・水の子・茄子の牛・胡瓜の馬。

普仙寺諸行事のご連絡

◎七月二十九日（水）
★盆大施餓鬼
住職と副住職で勤めます
参拝不要です。

◎八月十三日（木）
★迎え火
少人数で寺参り
少人数で本堂前焼香

◎八月十四日（金）
★自宅棚経以外の家の回向
住職と副住職で勤めます
参拝不要です。

◎八月十五日（土）
★戦没者戦災者追悼法要
住職と副住職で勤めます
★送り火
少人数で寺参り
少人数で本堂前焼香

◎八月十六日（日）
★灯篭流し
中止します

住職の短歌

令和元年から令和二年に詠んだ短歌の続き（前回は2年6月号）を掲載します。

9号

大輪の皇帝ダリア見上げてる薄紫の花弁清しい

8号

知恩院阿弥陀堂前冬桜参拝客も少し微笑む

2号

枝先の真白のタネが物語る南京黄櫨の今年一年

第寺

ささやかにそっと咲いてる水仙の白い花びらそれを待ってた

仙

十二月新幹線のデッキ立つ窓から見える夜の工場

普

冬枝に黄色熟した花梨の実幾つもあってそれも一景

枯れ枝に艶々光る黒い実が白山吹の冬の変相

参道の植え込みそこに車輪梅黒紫の実を愛でる冬

千両の赤い実を見て立ち止まる人の行き交う寺の参道

クリスマスソングを歌う集団の横を歩いて大橋渡る

新門に白い山茶花咲いている令和元年歳末の朝

錦木の枝の翼が見える頃ひとつ残った赤い実がいい

冬庭に馬酔木の蕾垂れている開花の春を思い描こう

白川に柳落葉の朝が来た行者の橋も細文字模様

筴莚の赤い実を見て嬉しがる少女のような君が好きだな

知恩院令和元年十二月三十日は餅つきの音

中学の同窓会に出て見れば懐かしい顔昔を語る

蠟梅の甘い黄色の花が咲く令和二年の一月四日

鮮やかな青葛藤その実には毒が有りますそれも誘惑

石蕗の綿毛の姿並んでるふっと吹いてる君を想像

三叉の花の蕾が待っているじっと静かに春が来るまで

早咲きの椿の花が咲いているこれから登る石段の横

一月の朝日の差した滋賀平野麦の若芽の色が輝く

常緑の青葉のかげに隠れてた万年青の赤い実が光ってる

近寄れば真紅に光る青木の実一年ぶりの再会に笑む

冬の朝参道歩くその脇にひっそり咲いた赤い椿が

いち早く開花のさまを見せている若き梅の木君は元気だ

冠雪の二月一日伊吹山陽に照らされて色は純白

嘉禄の法難選択集通読

去る六月二十二日、嘉禄の法難の日に、知恩院御廟前にて『選択集』通読を行いました。本年はオンライン法式で行いました。

現地参加者は滋賀教区法蔵寺阿頼耶文雄上人・住職加藤良光の二名、オンライン参加者は三河教区勢至寺深津宏枝上人・法雲寺水谷雅豊さん・副住職加藤良全の三名、合計五名の参加でした。

境内樹木の剪定

去る六月二十日、普仙寺境内樹木の剪定を、清須町の牧野勇さんにして頂きました。

写真は檀信徒会館の前庭にある槇の木を剪定しているところです。

寺行事案内

七月二十九日（水）
ぼんだいせがきえ
盆大施餓鬼会
本年は住職と副住職とで勤めます。参拝不要
申込用紙は六月号にあります。
八月一日より十五日まで
おぼんのたなぎょう
お盆の棚経
希望者には日程と時間を葉書にてご通知します

お盆の迎え方

八月十三日
①盆棚飾り
小机または膳引き板に真菰（まこも）の筵（むしろ）または蓆（ござ）を敷き、仏壇の中からご先祖のお位牌をお移しして安置します。
天井より女竹または苧殻（おがら）を水平に吊るし、五如来の幡（はた）や、鬼燈（ほおずき）を掛けます。
お位牌の前には、香炉灯明・花立て・霊供膳・水向け皿・溝萩（みそはぎ）・水向けの為の草花・ミソハギ科の多年草で淡紅紫色の六弁小花を長い穂状に密生させている・溝萩が無い場合は南天の葉で代用します）・水の子（みずのこ・茄子のサイの目切りと洗米を混ぜたものを蓮の葉に盛りつけます）・茄子の牛・胡瓜の馬・野菜・果物・団子・おはぎ等をお供えします。
②提灯飾り
お迎え提灯・家紋提灯
③迎え火
先にお墓の前でタイマツを焚きます、
本年は少人数で寺参り
少人数で本堂前焼香
次ぎに自宅門前でタイマツを焚きます。
④迎え団子・お水をお供えしてお精霊（しょうろう）さまをお迎えします。
八月十四日
三度のお膳、菓子・果物野菜など
自宅棚経以外の家の回向
普仙寺本堂で住職が勤めます。参拝不要です。
八月十五日
①三度のお膳、菓子・果物野菜など
②送り火
先に自宅門前でタイマツを焚き、次ぎにお墓の前でタイマツを焚きます。
本年は少人数で寺参り
少人数で本堂前焼香
③お供物（なまもの）を普仙寺境内の納め所へ納めます。
八月十六日
①灯篭流し
本年は中止します。
八月二十五日（火）
①提灯納め
豊橋仏教会主催行事。
松葉公園にて
午後二時より七時まで
納め料二千円。

「普仙寺だより」二八九号
発行日　令和二年七月八日
発行所　普仙寺
発行者　加藤良光
〒四四一―八〇九三
豊橋市牟呂中村町六の五
電話
〇五三二―三一―七四五七

お盆の迎え方（例年）	お盆の迎え方（本年）
7月２０日　「普仙寺だより」６月号の申込用紙に盆大施餓鬼の時間までに申込をする。 塔婆番号通知書の葉書の返事を受け取る。	7月２０日　「普仙寺だより」６月号の申込用紙に盆大施餓鬼塔婆の申込と、**棚経を自宅希望か８月１４日普仙寺本堂希望かを申し込む。**
7月２９日　普仙寺　盆大施餓鬼。 塔婆番号通知書の葉書を持参して受付に提示する。 お参り後、塔婆は墓へ、五如来の幡は自宅へ。	7月２９日　普仙寺　盆大施餓鬼。 **住職と副住職とで勤める。**
	7月３０日以降　普仙寺で、施餓鬼塔婆を受け取る 塔婆は墓へ、五如来の幡は自宅へ。
7月００日　初盆の方で、馬見塚町専願寺の施餓鬼を希望する場合施主が電話予約(31-3944)。	**7月００日　専願寺の施餓鬼は本年中止です。**
8月１日より１５日までのある日 棚経（葉書にて通知） （檀家宅でのお経）霊供膳を用意。	8月１日より１５日までのある日 **棚経（希望者に葉書にて通知）** （檀家宅でのお経）霊供膳を用意。
8月１日より１２日までのある日（次ページに表示）初盆の方で、牟呂校区汐田校区に在住の方は普仙寺本堂前の初盆高万灯のご奉仕。 午後７時点灯。	8月１日より１２日までのある日（次ページに表示）初盆の方で、牟呂校区汐田校区に在住のは普仙寺本堂前の初盆高万灯のご奉仕。 午後７時点灯。
8月１３日①盆棚飾り　五如来の幡、ほおずき茄子牛、胡瓜馬など ②提灯飾り　お迎え提灯、家紋提灯、初盆の方はこの他に切子灯篭と枕米セット（扇子・草履）一組を追加親戚が用意。 ③迎え火（お寺） 初盆の方は、午後４時××分普仙寺本堂前の初盆高万灯にて初盆合同のお参り。その後墓の前でタイマツを焚く。 ④迎え火（自宅）自宅門前にてタイマツ初盆の方は門前に戒名の紙を貼った青竹筒にコウハナを挿して飾る。青竹は土に刺すか、砂を入れたバケツに刺す。青竹がない場合はプラスチック製でも可。初盆の方のタイマツは１０８本大きさは自由。	8月１３日①盆棚飾り　五如来の幡、ほおずき茄子牛、胡瓜馬など ②提灯飾り　お迎え提灯、家紋提灯、初盆の方はこの他に切子灯篭と枕米セット（扇子・草履）一組を追加親戚が用意。 ③迎え火（お寺）**少人数にて寺参り 少人数にて本堂前焼香** 初盆の方は、午後４時××分普仙寺本堂前の初盆高万灯にて初盆合同のお参り。その後墓の前でタイマツを焚く。 ④迎え火（自宅）自宅門前にてタイマツ初盆の方は門前に戒名の紙を貼った青竹筒にコウハナを挿して飾る。青竹は土に刺すか、砂を入れたバケツに刺す。青竹がない場合はプラスチック製でも可。初盆の方のタイマツは１０８本大きさは自由。
	8月１４日・本堂で自宅棚経以外の家の回向 住職と副住職とで勤める。参拝不要。
8月１４日・１５日　３度の食事、団子・おはぎ・果物など。	8月１４日・１５日　３度の食事、団子・おはぎ・果物など。
8月１５日①送り火 ｱ,自宅　門前にてタイマツ ｲ,お墓　墓の前でタイマツを焚く。 ②お供物（食品・陶器・金属以外）を普仙寺境内の納め所へ納める。 ③枕米セット一組を８月１５日に普仙寺本堂へ納める。	8月１５日①送り火　**少人数にて寺参り 少人数にて本堂前焼香** ｱ,自宅　門前にてタイマツ ｲ,お墓　墓の前でタイマツを焚く。 ②お供物（食品・陶器・金属以外）を普仙寺境内の納め所へ納める。 ③枕米セット一組を８月１５日に普仙寺本堂へ納める。
8月１６日灯篭流し 牟呂市場町の柳生川河岸にて 午後６時３０分より受付。 午後７時出発。 灯篭は１３日４時××分本堂前の初盆高万灯回向の際にお渡ししますので、１６日には組み立てて持ってきて下さい。	8月１６日灯篭流し **中止します**
8月００日豊橋仏教会　魂まつり法要 ６時より豊橋公園 ①法要希望者は申込書に必要事項を書き参会費1,000円を添えて８月１５日までに普仙寺へ申し込んで下さい。 ②提灯納め　豊橋公園２時～７時 納め料2,000円当日。	**8月２５日**豊橋仏教会　魂まつり法要 ６時より**松葉公園** ①法要希望者は申込書に必要事項を書き参会費1,000円を添えて８月１５日までに普仙寺へ申し込んで下さい。 ②提灯納め　**松葉公園**２時～７時 納め料2,000円当日。